



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はしがき
Author(s)	小内, 透
Citation	北海道アイヌ民族生活実態調査報告, 4
Issue Date	2015-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60104
Type	other
File Information	AINUrep04 (2).pdf



はしがき

北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、社会調査プロジェクトとして2008年と2009年にアイヌ民族の方々を対象としたアンケートとインタビューの方式による生活実態調査を実施した。それぞれの調査結果については、すでに『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告 現代アイヌの生活と意識』（2010年3月）、『2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容』（2012年3月）、『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査再分析報告書 現代アイヌの生活と意識の多様性』（2014年3月）の3つの報告書にまとめられている。

今回、これまでの調査とは視点を変え、アイヌの人々が数多く居住する地域の住民を対象にし、アイヌの人々との関わりやアイヌ文化・アイヌ政策に対する評価について明らかにするための調査を実施した。具体的には、2009年調査の対象地であった札幌市とむかわ町を選定し、そこに居住する有権者を対象にした郵送によるアンケート調査を行った。本報告書は、その結果をまとめたものである。

地域住民を対象にした調査を実施したのは、地域の人々が取り結ぶアイヌの人々との社会関係、アイヌ文化に対する意識やアイヌ政策に対する評価のあり方が、アイヌの人々の生活や意識に大きな影響を与えると考えたからである。かつてアイヌの人々が同化を強いられ、生活が困窮した背景の1つに、アイヌの人々に対する和人の差別意識があった。和人の差別意識はアイヌの人々との社会関係を支配・抑圧的なものにし、その関係が差別意識をさらに強固なものにした。

現在では、2008年に「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が国会の衆参両院で採択され、それ以降、様々な形で日本政府によるアイヌ政策が推進されるようになった。その中には、アイヌ民族やアイヌ文化に関する理解を深め、差別をなくすための取り組みも含まれている。そのため、アイヌの人々やアイヌ文化に対する地域住民の眼差しや付き合い方は、かつてとは異なっている可能性がある。このような点を明らかにすることが本調査の主たる目的の1つである。

なお、札幌市とむかわ町を対象地として実施した2009年調査の報告書とつぎあわせれば、アイヌの人々の生活や意識の実態が複眼的に把握できると考えている。そのため、今回の調査ではアイヌの人々を直接の対象者としていないが、本報告書を「北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その4」として位置づけている。

今回の調査には札幌市とむかわ町の多くの方々に協力して頂いた。この場を借りて、協力して頂いた皆様に、お礼を申し上げます。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員

北海道大学大学院教育学研究院

小内 透